

研究テーマ	生活の中の美術の働きを理解し、生かしていく意欲と態度を育てる美術科指導の在り方 ～第1学年「和菓子をつくろう」の実践から～
-------	--

かすみがうら市立千代田中学校

教諭 矢口 美智子

## I 研究テーマについて

学習指導要領では、美術において色や形というものは、見たことや感じたこと、考えたことを他者や社会に対して表現という形で伝えたり、鑑賞という形で受け取ったりすることのできる言葉のようなものである。そして私たちの身の回りには日常的な物から都市空間に至るまで多くの物が色や形を使って構成されている。このような身近な物から社会的な役割に至るまでの美術の働きを理解させることは、今回の中学校美術科の学習指導要領の一つのポイントである。

私たちは、自然の物、人工の物も含めて形や色、材料に囲まれて生活をしており、それから様々な感情やイメージ、情報などを受け取っている。このような造形や美術の働きは、意識してとらえようとすると豊かに感じ取ることができるが、意識しなければほとんど気付かないでいることも多い。この生活を豊かにしている美術の働きを理解させるためには、まず自分の身の回りを幅広い視点をもってみるができるよう、よさや美しさなどの価値を豊かに感じ取る力を身に付けることが必要である。そのためには表現と鑑賞のそれぞれの活動において形や色、材料、光などの基本的な性質や感情を理解させながら、それらを意識させて積極的に対象を見つめるなどの場面を活動の中に位置づけることが求められる。また、対象を表面的にとらえるにとどまらず、見方や視点を広げさせて、日頃意識していなかった美術の働きに気付くことができるようにすることが大切である。

美術の学習では生活の中における美術の働きを単に知識として学習するだけでなく、生徒に実生活を通して現実にかかわっている家庭や地域、学校などにおいて生活を美しく豊かにしている美術の働きを表現や鑑賞の学習の中で実感的に理解できる題材を設定することが大切である。ものの見方や感じ方を深めたり、人と美術とのかかわりに関心をもたせたりすることが大切でないかと考え、本主題を設定した。

## II 研究の実際

1 題材名 第1学年「和菓子をつくろう」

2 題材の目標

○和菓子の名称やデザインなどに興味・関心をもち意欲的に制作・鑑賞しようとする。

(関心・意欲態度)

○食べる人の立場に立って、和菓子としての目的や機能、材料のもつ特性、造形的な美などを総合的に発想し、構想を練ることができる。

(発想・構想の能力)

○日本の独特で美しい表現方法や構成、技法などに関心をもち、そのよさや美しさを表現に生かすことができる。

(創造的な技能)

○和菓子に込められた日本特有の美意識や季節感を感じ取るとともに、伝統工芸や伝統文化などから造形的なよさや美しさ、創造力の豊かさなどを理解しそのよさを味わうことができる。

(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態 (男11人 女10人 計21人)

質問1 身の回りのものに美しいと感じることはありますか。

ある5% 時々ある35% あまりない48% ない12%

質問2 描きたい、つくりたいと思うときは。

興味関心があるとき26% つくりたいイメージが浮かぶとき58%

色々な表現が考えられるとき9% いろいろな材料が思い浮かぶとき7%

質問3 自分の作品を描いたりつくったりしているときに友達に教えたり、教えられたりすることがありますか。

ある 19% 時々ある 46% あまりない 31% ない 4%

質問 4 どんな活動が好きですか。(複数回答)

風景画などを描くこと 35% デザイン画を描くこと 48%

粘土や木などでつくること 36%

鑑賞(作品鑑賞・ビデオ鑑賞・画家の作品を鑑賞) 13%

質問 5 「床の間」という言葉を聞いたことがありますか。 ある 67% ない 33%

「床の間」とは、何か知っていますか。 分かっている 45% 分からない 55%

アンケートの結果からは普段の生活に美しさをあまり感じない、感じない生徒が13人であった。何気なく見過ごしてしまっているものの中には、色々な視点から見つめ直すことにより今まで気づかなかった美しさを感じ取れるものが多く存在している。この美しさを感じ取ることにより生活をより豊かにする心が生まれ、美術の働きについて理解を深めていくのではないかと考える。

生徒が描きたいつくりたいと思う時は、題材に興味関心があるとき・つくりたいイメージが浮かぶときである。ゆえに、生徒がつくりたいイメージを膨らませられるような導入の工夫が必要である。また、グループ協同学習を発想・構想の段階で取り入れることにより、互いに学び合い、試行錯誤を繰り返しよりよいアイデアを構想することができる。これにより作品に対して自信をもって制作に取り組むことができると考える。

## (2) 題材観

生活を美しく豊かにする美術の働きとは、美的なものを大切にし、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しんだり、生活環境を美しく飾ったり構成したりするなどの美術を愛好していく心を培い、心潤う生活を創造しようとする意欲と態度をはぐくむことである。「心豊かな生活を創造していく意欲と態度」は学校生活だけでなく、学校外の生活や将来の社会生活も見据えている。その育成のためには授業の中で形や色彩、材料などから生活を豊かにしている美術の働きを理解させる題材をとりあげていくべきである。

さらに、生徒が実感をもってとらえることのできる日々の生活や将来の社会にかかわる題材であること。また、国際社会で活躍する日本人を育成するためには、我が国や郷土の伝統や文化を理解し、そのよさを継承・発展させるための教育や、人々と共存してよりよい社会を形成していこうとするための教育に資する題材であること。この2つの観点を満たす題材として「和菓子をつくろう」を題材として設定した。

表現の活動を通して生活を豊かにする美術の働きを理解させるために、A 表現の活動の中で「伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」項目が直接関係する。この項目は身近な生活や社会をよりよく美しく心豊かなものにしていくための発想や構想する能力を身に付けることに重点が置かれている。題材の導入時は、それぞれの「対象」や「場面」の設定を生徒が実感しやすいように提示することが大切である。生徒は自分の身近な生活やこれまでの経験から発想や構想を膨らます方がイメージしやすい。例えば自分の学校を楽しいものにする装飾を考えたり、身近な商品のパッケージデザインをするなど身の回りにある対象や場面の設定をすることでより生活の中での美術の働きの理解が深まることが考えられる。

鑑賞の活動を通しては、生活に直接機能的に働く身近なデザインや用途と美の調和を考えた工芸品などを対象にして鑑賞を行うなど、生活の中の色彩や形に対して意識させて形や色に囲まれることで心豊かに生活を営んでいることに気付かせることが大切である。

そして今まで身近にありながらも気付いていなかった色彩や形の働きに着目できるようになることで単にその機能について理解するだけでなく、実際に表現や鑑賞の活動に生かしたり、自分自身の普段の生活に色彩や形、材料、光などの性質やそれらがもたらす感情などを活用したりできるようになると考える。

## (3) 指導観

和菓子をつくろうという題材において、伝統文化の和菓子だけに触れるのではなく、和菓子が一体どういう場面で使われるかを想像させ、実生活に結びつけていく。例えば家にお客様を招く場合について考えさせる。その場合、床の間のある部屋に通されもてなされると想像させる。ここで日

本の伝統文化の屏風や床の間などについても触れておくことで、芸術の視点をもたせるようにしたい。事前アンケートでは床の間という言葉を知っている生徒は67%床の間とは何か知っている生徒は45%という結果であった。また、普段食べている甘いものはどんなものかという問いにはほとんどの生徒がケーキやプリンなどの洋菓子やチョコレートなどの菓子がほとんどであり、和菓子を食べる生徒はいなかった。身近にありながらも「和」について興味・関心をもって生活をしている生徒はほとんどいなかった。

和菓子は日常の生活の中で触れることができるものである。しかし、実際に食べたり美しさを感じたりしている生徒は少ない。そこで和菓子をつくる人の気持ちや、味わいとしての機能、見た目の美しさなどに触れて欲しいと考えた。

授業の展開においては、和菓子を実際に鑑賞し、紙粘土でオリジナルの和菓子を作成することで和菓子のもつ繊細な美しさや、受け継がれる伝統の技と「和の心」について考えることができる。また、和菓子という「食べ物」に日本の四季のもつそれぞれの色、香り、音などから感じとることのできる美しさを表現することができる。これらの体験から自分と美術の関係を実感し、生活を豊かにする美術の働きについて理解を深めることができるのではないかと考えた。

#### 4 題材の評価規準

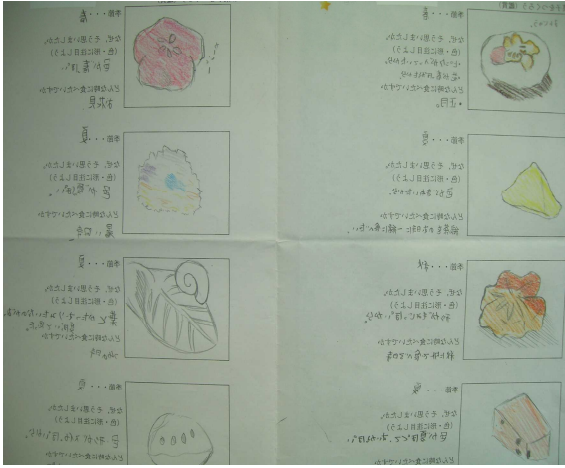
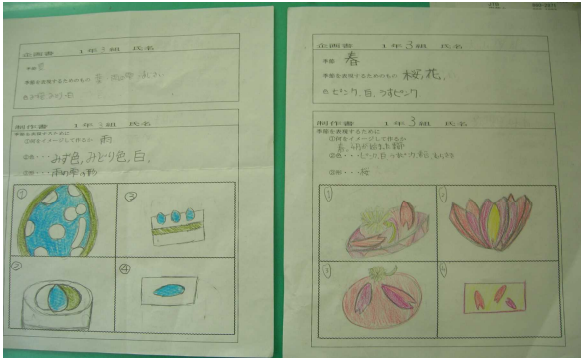
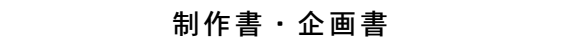
関心・意欲・態度	発想構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
和菓子の名称やデザイン・伝統工芸・文化などに興味関心をもとうとする。 和菓子について、鑑賞したり意欲的に制作に取り組もうとする。	相手の思いに寄り添い、和菓子としての目的や機能、造形的な美などを総合的に発想し、構想を練る。	和菓子独特の色合いや形などを、表現の中に生かし、思いに合った作品をつくることができる。	和菓子などに込められた日本独特の美意識や季節感を感じ取ることができる。 伝統工芸・伝統文化などから造形的なよさや美しさ、創造力の豊かさなどを理解しそのよさを味わうことができる。

#### 5 指導と評価の計画（7時間）

時	学習活動・内容	評価規準
事前	和菓子についての資料を集める。	・和菓子についての資料を集めることができる。
第1次 ②	題材に触れる。 ・和菓子の鑑賞 ・日本建築の鑑賞 ・抹茶を飲んだり、和菓子を食べたりする。 ・雅楽を聴く。	・和菓子についての鑑賞を通して、季節感や色合いの美しさについて感じ取ることができる。 関【ワークシート】 ・日本建築の鑑賞を通して、伝統文化や工芸の美しさを感じ取ることができる。 関 鑑【観察・ワークシート】 ・抹茶体験という活動を通して、和菓子の色・形・名称で工夫されているところを感じ取り、気がついたことなどを意見交換することができる 関【観察・ワークシート】
第2次 ②	発想・構想する。 ・企画書を書く。 (個人→グループ・2名) ・企画書をもとに、制作者はもてなす気持ちを和菓子に込めて表現の工夫をする。 (個人→グループ・2名)	・企画書を書くことができる。 関 想【観察・ワークシート】 ・企画者の意図に合うように、和菓子の色や形を工夫することができる。 関 想【観察・ワークシート】
第3次	制作する。	・制作手順を考え、道具を工夫しながら使用し、効果的に

②	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘土ペラなどの道具を工夫して使用し効果的に表現する。</li> <li>作品に魅力的な題名をつける。</li> </ul>	表現する。 <span style="float: right;">関 創【観察・作品】</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>思いに合った題名をつけることができる。</li> </ul> <span style="float: right;">関 想【作品・ワークシート】</span>
第4次 ①	鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成した作品を鑑賞し、どんな気持ちが込められているのかを想像しながら、互いの作品のよさを味わう。</li> </ul> <span style="float: right;">関 鑑【観察・ワークシート】</span>

## 6 指導の実際（7時間）

次	時間	教師の提案	生徒の反応
1	事前 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に「和菓子についてパンフレットを集めておく」課題を提案する。</li> <li>和菓子のカードを見せ、題名、色、形、季節感を感じ取らせ、ワークシートに記入させる。</li> <li>実物の和菓子を鑑賞する。</li> <li>抹茶を試飲したり、和菓子を食べたりし和菓子の名称から浮かんでくる季節感、つくり方で工夫されているところを感じとる。食べた後、気がついたことなどを意見交換する。</li> <li>和菓子についてインターネット・本を使って調べ学習をさせる。 (和菓子の色・形から季節感や作り手の思いを感じ取る。)</li> <li>和の建築模型を見ながら、伝統文化について触れる。 (床の間・欄間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和菓子に関する色々なパンフレットを集める。 (・インターネットで調べる ・広告を切り抜く ・和菓子店に行きパンフレットをもらってくる。)</li> <li>和菓子から、題名、色、形、季節感を感じ取ることができる。</li> <li>グループ活動にし、感想を出し合う時間を取り入れ、友達の感想の中から新たな視点に気付く。</li> <li>初めて体験する生徒が多かった。</li> </ul>
			鑑賞プリント
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナル和菓子をつくるための企画書を書く。</li> <li>各々に書いた企画書をまとめる。 (個人→グループ・2名)</li> <li>企画書をもとに、制作者は和菓子に思いを込めて、色・形などの表現の工夫をし制作書を書く。</li> <li>2人の意見をまとめよう。 (個人→グループ・2名)</li> </ul>	
			制作書・企画書

3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作書をもとに粘土で和菓子を制作する</li> <li>・粘土ペラなどの道具を工夫して使用し効果的に表現する。</li> <li>・作品に魅力的な題名をつける。</li> </ul>  <p>作品（題名 夏の思い出）</p>  <p>作品（題名 緑がたくさん 果物たち）</p>	 
4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞する。</li> <li>・完成した作品を相互鑑賞し、どんな気持ちが込められているのかを想像しながら、互いの作品のよさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互鑑賞する。</li> </ul>

(1) 題材設定について

生徒は和菓子に慣れ親しんではないが、日常的に目にできるものであったため、スムーズに取り組めた課題であった。導入の段階で「和」との出会い（日本建築の模型・床の間について学習し、抹茶と和菓子を食べる。日本的な音楽を流す。）の場を設定したことにより、和菓子について深く触れる機会を与えることができた。

(2) 導入の段階(和との出会い)での工夫

(ア) 資料集を使って、「和」の伝統文化について親しむ学習はしたが、実生活に生かすという点で床の間のある普通の家をビデオ撮影し、家の中の伝統文化について指導を行った。

- ・視聴する時は、親戚の家に遊びに行くつもりで見よう指示をした。
- ・ビデオの内容は玄関→廊下→床の間のある部屋(屏風・花器・羽子板)を映した。

(イ) さらに実生活で考えられるよう、家の模型を見せた。

(ウ) 抹茶と和菓子を体験することにより、和菓子の繊細な作りを感じる。

- ・親戚の家に行った時の気持ちで和菓子を食べたり、抹茶を飲む。

(エ) 雅楽（古典芸能であった雅楽を現代音楽と結びつけた音楽）を聴かせる。

「和」との出会いの感想（授業中の生徒の感想より）

- ・おばあちゃんの家と同じだ。
- ・これが床の間なんだ。私の家にもあるよ。羽子板は七五三のお祝いでもらった。
- ・欄間ってすごい。どちら側から見ても同じ形に彫ってあるんだ。
- ・抹茶を始めて飲んだけど苦くなくて、とてもおいしい。
- ・和菓子は、いろいろな色や形があってとてもかわいい。食べてみると、そんなに甘くなくておいしい。
- ・和菓子はとても丁寧に作られているんだね。

### (3) 生徒Fの考察（1学期のデザイン制作では作品を完成させることができなかった。）

- ・題材が身近なものであったことと導入時の工夫により、和菓子屋に行き和菓子づくりの本を借りてくる意欲的な姿が見られ、関心意欲が高められたと思う。
- ・鑑賞では、和菓子の色・形だけに着目せず、季節感や和菓子から受けるイメージに視点をおいて鑑賞していることが鑑賞カードから読み取れた。
- ・鑑賞の深まりがあったため、スムーズに発想することができた。
- ・発想の過程でグループ協同学習を取り入れたので、持参した資料をグループのみんなに見せたり、アイデアを相互に交換し、色々な考えをもつことができた。
- ・授業中は積極的に自分の意見を各過程（和菓子の鑑賞→企画書→制作書→相互鑑賞）において発表し、友達の意見を聞き入れる姿が見られた。
- ・制作後の反省には、「色々な形や色の和菓子があり、びっくりした。季節やもてなす相手の気持ちを考えて和菓子をつくることができよかった。」と、述べることができた。

### (4) 豊かな感性を育てていくための手だてについて

和菓子を食べる人の気持ちやつくる人の気持ちを実感させる過程を取り入れたことで、和菓子の形の美しさだけにとどまらず、和菓子と生活の関係を理解し、色や形に気持ちを表現する美術の働きについて考えることができたり、和菓子がいかに生活を豊かにしているものかを感じ取ったりすることができた。

アイデアが浮かばない生徒は、発想の段階でのグループ協同学習を通して、友達の意見を聴いたり、アドバイスを受けたり、導入時の鑑賞ワークシートを再度見返しながら、形や色を表現できた。同じ形になってしまう場合もあったが、色を工夫しながら生徒全員が発想することができた。グループ協同学習を取り入れることは全員の学びを保障し、意欲をもって授業に取り組む生徒を育成できることが分かった。

## III 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ① 実生活にいかに関係しているか実感できる題材を設定することで生徒は興味・関心をもって制作に取り組むことができた。
- ② 発想構想の場面において「学び合い」を行い、全員が発想することができた。
- ③ 鑑賞の場面を設定することで、制作への意欲を高め、発想の能力を高めることができた。
- ④ 学年が上がるにつれ、実生活から美しいと感じる場面が多くなり、豊かな生活と美術の関係を理解するようになってきた。

### (2) 今後の課題

- ① 教科の学びが実生活や実社会にどう生きて働いているのかを実感できるような題材を生徒の実態に合わせて取り入れていく。
- ② 生徒一人一人が、教科の学びを実生活実社会にどのように生かしているかを検証していきたい。
- ③ 鑑賞の環境づくりを心がけ、日常的に美術鑑賞に親しめるよう校内環境を整えたい。
- ④ 美術館と連携した授業を取り入れ、作家の作品にも触れる機会をつくっていきたい。

(参考文献) 文部科学省 中学校学習指導要領解説 美術編中学校